

令和3年度決算に係る財務書類等の分析

宍 粟 市

I. 財務書類（全体）の概要

1. 貸借対照表（令和4年3月31日現在）

（単位：百万円）

科目	3年度	2年度	増減	科目	3年度	2年度	増減
【資産の部】				【負債の部】			
固定資産	98,935	100,851	-1,916	固定負債	62,867	66,659	-3,792
有形固定資産	90,308	92,335	-2,027	地方債等	47,294	50,587	-3,293
事業用資産	36,191	36,623	-432	退職手当引当金	2,366	2,459	-93
インフラ資産	50,432	52,042	-1,610	その他	13,207	13,613	-406
物品	3,685	3,670	15	流動負債	6,375	6,684	-309
無形固定資産	2,023	2,119	-96	1年内償還予定地方債等	5,113	4,975	138
投資その他の資産	6,604	6,397	207	未払金	476	900	-424
投資及び出資金	491	506	-15	賞与等引当金	391	435	-44
長期延滞債権	536	562	-26	預り金	208	227	-19
長期貸付金	169	185	-16	その他	187	147	40
基金	5,485	5,199	286	負債合計	69,242	73,343	-4,101
その他	-77	-55	-22	【純資産の部】			
流動資産	7,522	6,976	546	固定資産等形成分	102,010	103,937	-1,927
現金預金	3,059	2,614	445	余剰分	-64,795	-69,453	4,658
未収金	1,142	1,021	121	純資産合計	37,215	34,484	2,731
短期貸付金	17	18	-1	負債・純資産合計			
基金	3,058	3,067	-9	106,457	107,827	-1,370	
その他	246	256	-10				
資産合計	106,457	107,827	-1,370				

令和3年度末の市全体の資産は約1,065億円となり、前年度に比べて約14億円の減少となっています。このうち庁舎、学校などの事業用資産が約362億円（総資産の約34%）、道路や公園、上下水道などのインフラ資産が約504億円（総資産の約47%）、固定・流動資産を合わせた基金は約85億円（総資産の約8%）となっています。

負債は約692億円で、そのうち資産形成に要した財源は主に地方債で固定・流動負債を合わせて約524億円（総負債の約76%）です。

資産から負債を差し引いた純資産、いわゆる自己資本は約372億円であり、現在までの世代が負担した金額を示しています。

2. 行政コスト計算書(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(単位:百万円、%)

科目	3年度		2年度		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比
経常費用	34,494	100.0	37,427	108.4	-2,933	-8.4
人件費	6,628	19.2	6,670	19.3	-42	-0.1
物件費等	9,698	28.1	9,256	26.8	442	1.3
補助金等	14,222	41.2	17,354	50.3	-3,132	-9.1
社会保障給付	3,226	9.4	3,181	9.2	45	0.2
その他	720	2.1	966	2.8	-246	-0.7
経常収益	5,790		6,836		-1,046	
使用料及び手数料	4,709		4,705		4	
その他	1,081		2,131		-1,050	
純経常行政コスト	28,703		30,591		-1,888	
臨時損失	241		1,289		-1,048	
災害復旧事業費	198		978		-780	
その他	43		311		-268	
臨時利益	38		218		-180	
純行政コスト	28,906		31,662		-2,756	

令和3年度の経常費用は、令和2年度実施の特別定額給付金事業の減、市営住宅整備の完了による減があり、前年度に比べて約29億円減少の、約345億円となっています。

経常収益は、新型コロナウイルス感染症対策に伴う国庫支出金の減、市債の借入額の減により、前年度に比べて約10億円減少の、約58億円となっています。

経常収支の差し引きである純経常行政コストに、臨時的な損益を考慮した純行政コストは、前年度より約28億円減少し、約289億円となっており、このコスト(収支マイナス分)については、市税や地方交付税などの一般財源や、国県の補助金で賅っています。

3. 純資産変動計算書(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(単位:百万円)

科目	3年度	2年度	増減
前年度末純資産残高	34,484	28,362	6,122
純行政コスト(△)	-28,906	-31,662	2,756
財源	31,595	35,153	-3,558
税込等	19,426	20,153	-727
国県等補助金	12,169	15,000	-2,831
本年度差額	2,689	3,491	-802
資産評価差額	1	-7	8
無償所管換等	57	-140	197
その他	-15	2,778	-2,793
本年度純資産変動額	2,732	6,122	-3,390
本年度末純資産残高	37,216	34,484	2,732

令和3年度の純資産は、令和2年度より純行政コスト、財源とも減少したものの、純行政コストより税込や補助金などの財源が上回ったため、前年度に比べて約27億円増加の、約372億円となっています。

4. 資金収支計算書(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(単位:百万円)

科目	3年度	2年度	増減
業務活動収支	5,215	4,947	268
業務支出	31,144	33,450	-2,306
業務費用支出	13,562	12,780	782
移転費用支出	17,582	20,670	-3,088
業務収入	36,437	38,556	-2,119
臨時支出	198	1,174	-976
臨時収入	120	1,015	-895
投資活動収支	-1,743	-2,027	284
投資活動支出	2,757	3,584	-827
投資活動収入	1,014	1,557	-543
財務活動収支	-3,009	-2,507	-502
財務活動支出	6,486	6,729	-243
財務活動収入	3,477	4,222	-745
本年度資金収支額	463	413	50
前年度末資金収支額	2,413	2,000	413
本年度末資金残高	2,876	2,413	463

前年度末歳計外現金残高	201	182	19
本年度歳計外現金増減額	-19	19	-38
本年度末歳計外現金残高	182	201	-19
本年度末現金預金残高	3,058	2,614	444

業務活動収支は、維持管理経費などが増加したものの、支出より収入の減額が少なかったことにより、前年度より約3億円の増加の、約52億円となっています。

投資活動収支は、令和2年度と比べ、公共施設等の整備等の減少により、約3億円の増加となりましたが、財務活動収支は、繰上償還の実施のほか、地方債の発行が減少したことで、前年度に比べて約5億円の減となっています。

結果として、歳計外現金を加えた現金預金残高は、前年度より約4億円の増加となりました。

II. 全体財務書類の分析

1. 住民一人当たり資産額

市の人口規模に対する資産の大きさを示す指標です。

$$\text{住民一人当たり資産額} = \text{資産合計} \div \text{住民基本台帳人口(3/31 現在)}$$

(円)

	H29	H30	R1	R2	R3
全体	2,101,788	2,099,277	2,133,743	2,994,542	2,984,757
(参考)一般会計等	1,536,170	1,556,595	1,611,728	1,871,191	1,894,380

公営企業会計の資産が減少したことにより、前年度末からは約1万円減少しています。

2. 歳入額対資産比率

これまでに形成された資産が、歳入の何年分に相当するかを示す指標です。

$$\text{歳入額対資産比率} = \text{資産合計} \div \text{歳入総額}$$

(年)

	H29	H30	R1	R2	R3
全体	2.0	2.0	2.0	2.3	2.5
(参考)一般会計等	2.4	2.4	2.4	2.3	2.6

資産形成規模は、単年度の歳入総額の2.5年分に相当します。歳入総額が減少したことにより、令和2年度から0.2年分増加しています。

3. 有形固定資産減価償却率

有形固定資産のうち、建物などの償却資産の取得価格に対する減価償却累計額の割合で、耐用年数に対して資産の取得からどの程度経過しているか把握することができる指標です。

$$\text{有形固定資産減価償却率} =$$

$$\text{減価償却累計額} \div (\text{有形固定資産合計} - \text{土地等の非償却資産} + \text{減価償却累計額})$$

(%)

	H29	H30	R1	R2	R3
全体	56.7	58.1	58.8	54.8	56.3
(参考)一般会計等	60.5	61.6	61.9	62.9	64.7

令和3年度末時点の減価償却率は56.3%となっており、令和2年度と比べると1.5%増加しており、施設の老朽化が進んでいることがわかります。今後、老朽化に伴う維持管理等の費用により財政的負担の増加が懸念されるため、施設の統廃合など各施設のあり方を見直すとともに、各施設の長寿命化を図る必要があります。

4. 純資産比率

将来世代と過去及び現世代との間で負担の割合が変動したことを示す指標で、比率が高いほど将来世代が利用可能な資産が多いことを示します。

$$\text{純資産比率} = \text{純資産} \div \text{資産合計}$$

(%)

	H29	H30	R1	R2	R3
全体	35.6	35.5	35.8	32.0	35.0
(参考)一般会計等	41.1	40.7	41.1	50.6	52.8

令和2年度から3%増となり、将来世代が利用可能な資産が僅かに増加しましたが、依然として現世代が消費していると言えます。令和3年度については、税収等の財源が純行政コストの減少を上回っていますが、引き続き経常費用の抑制を行う必要があります。

5. 将来世代負担比率

有形固定資産などの社会資本等に対して、将来世代の負担を示す指標で、比率が低いほど将来世代の負担が低いことを示します。

$$\text{将来世代負担比率} = \text{地方債残高} \div \text{有形・無形固定資産合計}$$

(%)

	H29	H30	R1	R2	R3
全体	47.3	47.5	47.6	49.0	47.3
(参考)一般会計等	43.2	44.5	45.7	45.8	44.6

任意の繰上償還の実施や地方債の発行抑制により、令和2年度より1.7%減となっており、今後も将来世代の負担軽減に努める必要があります。

6. 住民一人当たり行政コスト

市の人口規模に対する行政コストを示した指標です。

$$\text{住民一人当たり行政コスト} = \text{純行政コスト} \div \text{住民基本台帳人口(3/31現在)}$$

(円)

	H29	H30	R1	R2	R3
全体	787,728	752,459	761,426	879,302	810,435
(参考)一般会計等	539,042	511,913	526,299	621,596	552,820

災害復旧事業の完了に伴い、約7万円の減少となっていますが、地理的条件もあって行政コストが高くなっています。使用料、手数料といった収入の見直しのほか、事務事業、経常経費など費用についても見直す必要があります。

7. 住民一人当たり負債額

市の人口規模に対する負債の大きさを示す指標です。

住民一人当たり負債額＝負債合計÷住民基本台帳人口(3/31 現在)

(円)

	H29	H30	R1	R2	R3
全体	1,353,552	1,353,728	1,368,972	2,036,859	1,941,339
(参考)一般会計等	904,614	923,004	949,682	925,238	894,390

一般会計での地方債の繰上償還のほか、公営企業会計を含む全体での地方債の発行抑制により、前年度より約10万円減少しました。

8. 基礎的財政収支(プライマリーバランス)

地方債等の発行収入を除いた歳入と地方債等の元利償還額を除いた歳出のバランスを示した指標で、バランスが均衡している場合には、持続可能な財政運営が実現できていると言えます。

基礎的財政収支＝業務活動収支(支払利息支出を除く)＋投資活動収支(基金を除く)

(円)

	H29	H30	R1	R2	R3
全体	536,278,790	107,449,401	727,352,410	3,821,412,866	4,232,065,207
(参考)一般会計等	-61,778,223	-410,173,061	-448,498,799	1,235,928,198	1,542,635,244

補助金等の支出をはじめ業務支出を抑えることにより、令和3年度の業務活動収支も黒字となり、前年度より約4億円増加し、約42億円の黒字となっています。また、一般会計等についても、約15億円の黒字となり、令和2年度から連続で黒字となっています。

9. 受益者負担比率

行政サービスを提供するにあたり、使用料・手数料など行政サービスに係る受益者負担の金額の割合を示した指標です。

受益者負担比率＝経常収益÷経常費用

(%)

	H29	H30	R1	R2	R3
全体	14.1	14.9	16.1	18.3	16.8
(参考)一般会計等	4.0	4.1	4.5	8.9	4.6

令和3年度は、補助金等の減により経常費用が減少したことから、令和2年度末から1.5%改善されましたが、今後も増加傾向にある社会保障給付など経常費用の増加により数値の悪化が懸念されることから、引き続き適切な受益者負担の設定や事業の見直し等に取り組んでいく必要があります。